

# 委員会報告

## 予算特別委員会

委員長 駒井 芳彦

### ◆検討課題(宿題)が残る当初予算

『合併4年目の今年  
は、「新しい高島」の  
取り組みを加速し、本  
格化し、一本立ちさせ  
ていく正念場の年であ  
る』との施政方針と共  
に提案されました本年  
度一般会計当初予算は、  
対前年比0・2%減の  
241億3千万円で編  
成されていきました。  
義務的経費は引き続き  
1・4%の減とする  
一方、公共事業等の投  
資的経費は7・5%増  
額されており、市内に  
活力を取り戻すために、  
以前からの提言が一定  
反映されたものとなっ  
ていました。

今般、琵琶湖の境界  
確定により交付税が増  
額され、琵琶湖環境保  
全のための共同事業に  
対前年比0・2%減の  
241億3千万円で編  
成されていきました。  
義務的経費は引き続き  
1・4%の減とする  
一方、公共事業等の投  
資的経費は7・5%増  
額されており、市内に  
活力を取り戻すために、  
以前からの提言が一定  
反映されたものとなっ  
ていました。

今般、琵琶湖の境界  
確定により交付税が増  
額され、琵琶湖環境保  
全のための共同事業に  
対前年比0・2%減の  
241億3千万円で編  
成されていきました。  
義務的経費は引き続き  
1・4%の減とする  
一方、公共事業等の投  
資的経費は7・5%増  
額されており、市内に  
活力を取り戻すために、  
以前からの提言が一定  
反映されたものとなっ  
ていました。

配送業務のみを業者に  
委託するのでは問題はな  
いこと、すべての責任  
は市にあること等が確  
認されました。  
また、市内の活力が  
著しく低下している現  
状と、施政方針で触れ  
られた景気判断に若干  
認識の違いがあり、よ  
り一層の活性化策を求  
める提言も各委員から  
多く出されました。  
その他、若者定住問  
題、指定管理料の問題、  
後期高齢者医療制度に  
かかる問題、下水道事  
業にかかる契約問題等々  
が議論され、採決の結  
果、平成20年度の一般  
会計をはじめ、17会計  
はいずれも原案のおお  
り「可決すべきもの」  
と決しました。

原案のとおり「可決す  
べきもの」と決し、4  
日間に及ぶ審査を終了  
しました。  
なお、市長の定例会  
閉会の挨拶の中で、地  
元企業や若者への支援  
策の検討、安曇川学校  
給食センターの一部業  
者委託は、安心安全で  
美味しい給食が提供で  
きるように努力をする  
こと、今津スタジアム  
の維持管理について精  
査すること、国民健康  
保険税の値上げ幅を抑  
える検討をすること、  
下水道事業の維持管理  
業務を精査することな  
どを、「6月議会を目  
途に整理する」と明言  
をされました。

## 産業建設常任委員会

委員長 保木 利一

### ◆温泉利用料の改定は

#### 市民にしっかりと説明を

去る3月3日に委員  
全員の出席のもと会議  
を開き、3月定例会で  
付託を受けた9議案の  
審査を行いました。  
議決案件である議第  
2号から議第4号まで  
の3議案は、市道を廃  
止・変更・認定しよう  
とするもの、条例案件  
とするもの、条例案件  
は6議案で、議第25号  
は、市内の一般廃棄物  
処理施設について、地  
域や施設の機能に合致  
した名称に改正しよう  
とするもの、議第26号  
は、駐車場の区画の大  
きさに合わせ所要の改  
正をしようとするもの、  
議第27号および議第29  
号は、朽木の「てんく  
う」およびマキノの  
「たらし」の温泉利用  
料金の改定をしよう  
とするもの、議第28号  
および議第30号は、そ  
れぞれ条例を廃止しよう  
とするものです。



安曇川学校給食センター

### ◆行政視察研修報告

#### 掘割の船が人を寄せ、 生ごみが液肥になって大活躍

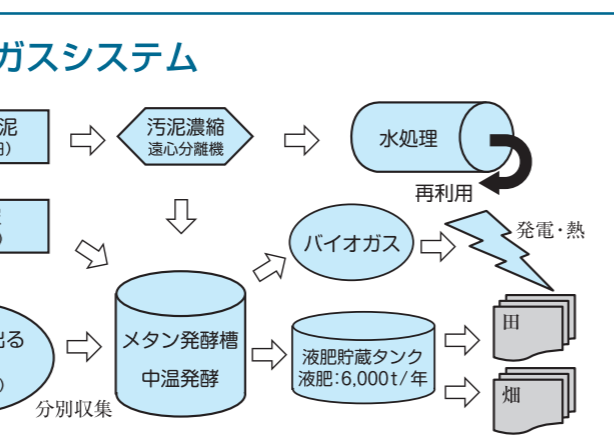
副委員長 橋本 恒夫

付託を受けた9議案  
の審査結果は、いずれ  
も、原案のとおり「可  
決すべきもの」と決し  
ました。

とりわけ、議第27号  
および議第29号の審査  
では質疑や意見が活発  
に行われました。

1月30日・31日に福  
岡県柳川市と大木町で  
視察研修を行いました。  
「柳川市」

水郷の市として全国  
に有名で、年間125  
万人の観光客が訪れて  
います。合併を機に  
「柳川市掘割を守り育  
てる条例」を新たに制  
定し、掘割を生かした  
まちづくりの取り組み  
を市民協働で行い「ホ  
タル飛び交う水郷柳川」  
を目指して「掘割の日」  
を制定(5月第4日曜  
日)し、その日は全市  
で清掃が行われるなど、  
自然環境の保全に努め  
ています。



掘割の景観は、きれ  
いに整備されていて観  
光に力を入れている様  
子が伺えましたが、堀  
の水は薄黒く濁ってい  
て下水道整備(普及率  
43・8%)が遅れてい



「おおき循環センターくるるん」

の資源化を模索する中  
で、平成12年新エネル  
ギービジョンを策定し  
て平成13年から産官学  
の共同研究を実施し、  
太陽光発電の普及等循  
環のまちづくりに取り  
組む中で、生ごみをバ  
イオマス資源として、  
加えてし尿・浄化槽汚  
泥の資源化も併せて処  
理できる施設として、  
国の補助事業を受けて  
総事業費約11億円を費  
やして建設されたもの  
です。従来の運営費用  
より年間2千万円〜3  
千万円の経費節減になっ  
ているとのこと、施設  
や分別システム、住  
民の協力体制にも驚き  
ましたが、ゴミゼロウ  
ェストを目指す町の施  
策に感動しました。